

JR西労組議員団会議所属議員が各地で発言する

■中田利幸市議 米子市議会が一般質問に登壇

東山運動公園の災害対応・JR東山公園駅のバリアフリー化と駅改良について質問する

2026年6月に改選を
迎えるJR西労組議員団会
議議長の中田市議(米
子市議会)が、3月6日
(金)に開かれた令和8
年3月期定例会におい
て一般質問に立ち発言
を行った。

当日、定例会には米
子地方本部と米子支
部が傍聴し、組織内議
員の激励を行った。



中田議員(中央)を激励する米子地本と米子支部の仲間

害対応機能について、「令和8
年度より県と米子市で急傾
斜地崩壊対策事業を実施し、
増加する雨水流量に対応し
冠水被害を防ぐために、米
子アリーナ整備に併せて東
山公園内に排水ルートの新
設を計画している」と答弁が
あった。

また、他地域の被災者の受
け入れを想定した災害時の
救援支援都市については、
「米子市も大阪府河内長野
市と災害時の協定を結んで
おり、鳥取大学医学部附属
病院は災害時の拠点病院に
指定されている。自衛隊もあ
り、日本の中でも一定の役割
が果たせる状態になってお
り、総合的に判断しながら市
から国にもPRしていく」と
答弁があった。

■坪田晋県議(福岡県議会)が一般質問に登壇

JR博多駅での帰宅困難者への行政対応について質問する

JR西労組議員団会議所
属の坪田県議(福岡県議
会)は、3月6日(金)に開かれ
た立ち発言を行った。



一般質問を行う坪田議員

定例会には、福岡
地方本部が傍聴行動を
実施し、組織内議員の激
励を行った。

坪田議員は「内閣府の
地震以外の要因による帰
宅困難者に対する事前
防災対策」「国内遠隔地
や外国からの観光客の行
き場のない帰宅困難者の
一時滞在施設の確保と輸

JR東山公園駅のバリアフ
リー化等の駅改良については
ためにホーム直接出入り可

能なスロープの設置等の工事
に向けた詳細設計を予定し
ており、早期の工事着手、完
成に努めたい」との答弁を引
き出し、新たな「目的」の開
業とあわせた東山公園駅の
機能強化を強く訴えた。

福岡県の服部知事から、福

■酒本哲也県議(山口県議会)が一般質問に登壇

深刻化するバス運転士不足への対応等について質問する

JR西労組議員団会議所
属の酒本県議(山口県議
会)は、3月10日(火)に開催され
た令和8年3月定例会にお
いて一般質問に登壇した。

酒本議員はバス運転士不
足対策を含めた地域公共交通
のあり方「山口DCCに向け
た観光振興」「クルーズ戦略お
よび日韓海上航路の活用とイ

岡県の考え方について「市町
村や事業者等との適切な役
割分担のもとで、様々な状況
に応じた帰宅困難者対策を
推進する」「帰宅可能になる
まで、待機する場所がない出
張者や観光客等の帰宅困難
者が発生した場合の一時滞在
施設については、市町村が地
域内の公的施設の指定、帰
宅困難者の一時滞在に協力す
る事業所等との協定締結に
より確保する」との前向きな
答弁を引き出した。



イラスト：岩森さん
福岡山形アはアーバン
エリアの乗務からローカル
のワゴン、特急列車と幅広
く運転しており、組合員
の求めるニ
ズも変わりま
す。それらの異な
る意見を常任委
員や地本執行
部とも連携を
図り、少しく
も働きやすく
なる環境とする



ためにこれからも人数が少
なく顔が見える関係の利点を
生かした楽しみながら運動が
行える部会として、引き続き頑
張ります☆

県からは「国や関係機関
等と協議会を構成し、課題の
共有や対策を検討しながら、
交通事業者との連携の下、就
職イベントへのブリス出展や
運転士体験会を開催してき
た。幹線バス路線への運行支
援や燃料費補助も継続して

取り組む「山口D
C」に向け広域周遊の
促進や滞在型観光
の推進を図るとも
に、山口DCCを契機に
山口県の認知度向上
に向けた視察ツアー
の実施、ターゲット
グ広告の配信、戦略
的なプロモーションを
展開し、関門地域を
はじめ、山口県全体のブラン



酒本議員(右から3人目)を激励する
広島地本と山口第一支部の仲間

ロマンは実を結ぶ

岡山地方本部 福山駅連合分会

No.379

新しい駅体制の構築で合併分離を繰り返した歴史

の各駅で構成されています。
現体制になるまで、いくつかの
合併分離を短い間で繰り返
してきました。

スタートは、福山駅、新尾道

次に府中分会と合
併し、府中駅と指令

の総合指令所で二元管理する
ようになり、府中派出のメン
バーも岡山へ異動となりまし

の券売機クラスの導入。巡回
方式に伴う周辺被管理駅の
無人化。交通サービスとの介
助業務と無人駅巡回業務の
業務交換。地域鉄道部廃止
や統括駅発足、指令所の統合
等組織の変更も含まれます。
福山駅連合分会では、これ
ら変化の度に団交等を通じ
て、会社側と対話を持ち、よ
りよい業務ができるよう交渉

してきました。正直変化が多
すぎて大変ですが、これから
も組合員が働きやすい体制
を整えていけるよう努めてい
きたいと思えます。

組合員の構成は、従来の新
卒採用に加え、社会人採用も
都度増え、元契約社員、また、ベテラン層では、シニア
アシナリーダー社員、シニア
ドシニア社員など10年前まで

では、考えられない程、多様な
社員で構成されています。
社員で構成されています。
昨今、若手を中心に、比較
的早く乗務員登用されてい
く傾向にあり、それを補う社
会人採用等も実施されてい
ることから、組合においても
会社の業務においても教育等
が、しっかりとできていないこ
とが、今の大きな課題と認識し
ています。

最後に、福山統括駅の特徴
として「チーム制」という企
画業務が盛んということがあ
げられます。主に中堅社員を
中心に、全JR採用社員を安
全、CS、人材、地域共生の4
チームに分け、様々な業務を
実施しています。

これからの変化に
負けないよう福山駅連合分
会一致団結して組合活動に業
に努めていきたいと思います。
〔岡山地本発〕



冬の尾道駅前の風景



福山駅連合分会への合併前の尾道駅連合分会

そして、昨年6月
1日の福山統括駅
発足を期に、尾道
駅連合分会と合併
し、今に至ります。
これらの合併分
離は、新しい駅体制
の元、実施されてき
ました。具体例を
あげると、窓口非対
面化に伴うみどり



福山駅南口の風景

